



2016～2017

沼田ロータリークラブ会報

人類に奉仕するロータリー
ROTARY SERVING HUMANITY

2016～2017年度 国際ロータリー会長 ジョン・ジャーム

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 小菅茂雄 幹事 西田俊太郎 会報編集 綿貫利彦
例会場 ティラン 事務所 沼田市西倉内町669-1 沼田商工会議所3階 TEL 0278-24-1177

第2912回 例会報告

2016年11月29日

記録 桑原伸一郎

例会予告

12/6	総会・西田治司先生卓話
12/13	クリスマス家族会 於 ロックハート城

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2016年12月6日発行 №22

公開例会

於 ホテル・ベラヴィータ

松下幸之助 成功哲学と危機克服の心得

松下資料館顧問 川越森雄先生



■講師紹介

小菅茂雄君

私の仕事柄、松下幸之助先生の教えを受けロータリーの職業奉仕の理念に通じるものを感じていました。20年間直接先生から指導を受けていた川越先生のお話をお聞きして、皆様の仕事に生かしていただきたいと思います。

■講演

全国から講演を頼まれ飛び回っていますが、よく聞かれるのは、今の時代はどんな状況になっていますかと問われます。世界がグローバル化して、危機と大変革の時代になっています。政治情勢の変化が経済に及び、テロなど宗教闘争、予測不可能で、更に自然災害が加わっています。世界交流が活発になり、ITによる情報改革もあり、急変します。

松下幸之助は危機に強い経営者で、PHPでも120作の本が出版されていますが、不況になると売れます。危機をどう乗り越えるの

か、目の前で出口が見えない、現実からは逃れられない中で、現実を受け入れどう乗り越えるか、そのための知恵を出すことを言っています。小学4年で中退していますので、学問でなく知恵の人でした。

「不況また良し」という言葉を述べています。不景気が商売で、次の成長に向かう。会社は確かに困るが、為すべき事に気付き、社員との質の向上に結びつけることです。

このことは多くの危機を乗り越えた体験の中から出たもので、信念を持って言っていることです。これには松下哲学が背景にあり、万物は常に発展進化し続け、発展して行くのが本領であると言っています。

不況は人間が勝手に作っていることで、変化し続ける中で仕事をしているので、日々新たな経営が必要である。守り続けるものは守り、変えなくてはいけないものは変えていく、その勇気が必要である。

松下幸之助の歩み

年	年齢	事 項
明治27年	0歳	11月27日和歌山県で8人兄弟3男末っ子として出生
明治37年	9歳	小学校を4年で中退し、大阪の火鉢店に丁稚奉公
明治38年	10歳	五代自転車商會に奉公
明治43年	15歳	電気事業にあこがれ、大阪電灯(株)に入社
大正3年	19歳	肺炎カタルにかかる
大正4年	20歳	井植むめの(19歳)と結婚
大正6年	22歳	大阪電灯(株)を退社、事業を始める
大正7年	23歳	松下電気器具製作所を大阪市福島区大開町に設立
昭和4年	34歳	「綱領・信条」を制定
昭和7年	37歳	第1回創業記念式典を実施。事業の真使命を発表
昭和8年	38歳	事業部制を実施、大阪府門真に本社工場を移転
昭和20年	50歳	太平洋戦争終結
昭和21年	51歳	GHQより7つの制限を受ける 11月3日、PHP研究所を設立
昭和30年	60歳	所得番付1位(39年間でベスト10入り30回)
昭和36年	66歳	松下電器産業(株)社長を退任、会長に就任 PHP活動を再開(真々庵にて)
昭和48年	78歳	会長を退任し、相談役に就任
昭和55年	85歳	(財)松下政経塾開塾
平成元年	94歳	4月27日死去



五代自転車商會の奥様と(10歳)



創業当時(23歳)



昭和22年 PHP 友の会婦人部結成



晩年の松下幸之助(88歳)

松下幸之助はなぜ成功したのか(本人の弁)

- 自分でも分からない 運命としか言いようがない。
- 体が弱く、学問もなく、お金もなかった。
- 何もなかったから成功したのかも知れない。
- ⇒自主責任経営/衆知経営/ダム経営
- 運命観・独自の発想・志・人間観・素直な心⇒松下哲学

親、兄弟の死去の年と幸之助の年齢

父(51)	11歳	母(57)	18歳
長女(46)	26歳	長男(23)	6歳
次女(20)	6歳	次男(17)	5歳
三女(21)	11歳	四女(17)	11歳
五女(28)	24歳		

●幸之助は八人兄弟の3男末っ子



幸之助は1824年和歌山県で8兄弟3男末っ子として生まれ、4才の時に父が破産、9才で小学4年中退し、大阪で丁稚奉公。15才の時に大阪電灯入社、大正3年19才で肺炎カタルになり病弱な体質。翌年井植むめのと結婚。22才で独立。大正7年23才で松下電器具を設立。昭和4年34才の時綱領・信条を制定。そして昭和7年第1回創業記念式典を行い、事業の真使命を発表して、経営理念が示された。PHPは終戦後、幸之助オーナー会社として作られた。

私は1969年入社し、新人研修の工場や販

売現場終了後、8名の新人とPHPに出向辞令を受け、不満に思いつつも行きました。

幸之助74才で会長職で、PHPでは社長でした。配属1週間後初めて会い2時間8人と話をしていただき、優しさと新人の話も聞いていただき感激し、信者となりました。

話の中で後で理解したのですが、成功の原点がありました。まず「感謝」「頑張れば成功する」「無もないから頑張れる」ということでした。

幸之助は、経営の神様、ベストセラーメーカー、日本一の大金持ち、哲学者・理想家と

言われていました。インタビューでは、必ず成功の秘訣は何か聞かれ、運ですから自分でもわからないと答えています。独特の使命感を持っていて、何もなかったからうまくいった。学歴無し、健康良くない、創業資金は妻の内職の金、親兄弟も早く死んで身内も無いのでした。創業の時は本人と妻、妻の弟井植歳男の3人だけでした。

何もないのが原点であり、そこから産まれるものが多く、昭和8年事業部制を作り、自主責任経営、任せることを行った。自分で全てはできないし、体がきかないので、任せるしかなかったのです。お陰で人が育つようになった。

次に周知経営。わからない事は教えてもらう。無学である自分を知り謙虚に教えるを乞うことです。

ダム経営。ダムのように必要なものを貯めておく。なにもない所から始め、人材・設備・資金を貯め、ゆとりが必要だった。

不況など恵まれない時に知恵を出し、新しいものを生ませる。人間はなにも無い方が知恵が出るものです。

幸之助は3回大きな危機にあいました。世界大恐慌、負戦、昭和39年家電不況です。これらの時には、昭和7年天理教での奉仕を見た体験で事業の真使命による経営理念の確立があったので信念によりゆらぎなく進められたのです。

社会を豊かにしなければ、幸せは絵にかいた餅であると言い、繁栄が生涯のテーマで、事業経営に魂が入った事です。その後の危機にも右往左往することなく進めていった。厳しさに鍛えられた中から倫理を確立したことです。これにより戦後PHP設立や、昭和54年松下政経塾を84才で立ち上げたのです。

幸之助の商人道とは、三方よしで売り手よし、買い手よし、世間よしです。

経営観は、良いものを豊富に提供し、豊かな生活、幸せに貢献することです。

商売観は、お客様の喜びが我喜びです。

商品観は、物に魂を与えたものが商品で、作っただけでは商品とはならず物のままです。物に考え方を添える。品質・機能・性能を添える。人間性を添える。信用・信頼を添える。心・技・体のサービスを大事にすることで商品となるのです。

商人として大事な3つの条件があります。商売の意義・使命がわかっていなければならぬこと。お客様の心が察知できなければならぬこと。相手よりも頭が下がっていなければならぬことです。幸之助はどんな相手でもおじぎをする時は誰よりも下がっていました。その姿は人間幸之助として感動と尊敬の念を与えています。

お客様をファンにする基本姿勢は、お客様の仕入れ係となり、お客様が喜ぶものを開発することで、道行く人は皆お客様と思うことである。

経営者は何をしなくてはならないか。一番心配するのが仕事である。心配が生き甲斐として、心配しながら積極的に仕事に取り組んで下さい。

本日は幸之助の行き方・考え方が、皆様の仕事や経営、更には生きる何らかのヒントとなれば幸いです。ありがとうございました。

例 会 報 告

■司 会 木下康彦委員

■来賓 松下資料館顧問 川越森雄様

委員会報告

◎ニコニコ委員会 小暮正人委員長
・ニコニコ一週間 川越先生をお迎えして

桑原 滋君	赤間昌彦君	吉野 登君
安達政喜君	天野純一君	松野正一君
木下康彦君	金井正樹君	今井幸吉君
水石清治君	小暮正人君	荒井静雄君
平井秀明君	宮内明彦君	桑原敏彦君
宮澤孝幸君	宮田徳彦君	戸部聖之君
橋本安夫君	桑原 裕君	小菅茂雄君
久保郁弥君	金子秀行君	綿貫利彦君
阿形登氏君		

◎財団BOX I N 松野正一委員長

持谷明宏君	吉野 登君	小菅茂雄君
松野正一君	関 真一君	桑原伸一郎君
金井正樹君	宮内明彦君	阿形登氏君
小暮正人君	赤間昌彦君	水石清治君
宮澤孝幸君	桑原 滋君	西田俊太郎君
天野純一君	橋本安夫君	山田龍之介君
宮田徳彦君	木下康彦君	金子秀行君
戸部聖之君	綿貫利彦君	保坂充勇君
井熊開三君		